

# 時間に余裕がない

なぜなら、時間は最も貴重な資源であるからです。時間は溪流のように流れ、その流れから利益を得るには、時間とともに動く必要があります。



グローバルな時間管理は、徐々にアジア的な長期にわたる計画や成長の影響を受けるようになっている

「世界を止めてくれ。俺は降りたいんだ。」スローダウンしたいと思うのは、欲求不満の叫びだけではありません。それは興味深い疑問の投げかけでもあります。なぜ世界時計は決して遅れないのか？この時間の観念とは実際何なのだろうか？

時間は、昼と夜、冬と夏、時間と分といったサイクルで計ることができます。私たちは、後戻りできない過去から未知の未来へと時間が矢のごとく過ぎるのを経験しています。また、時間はそれをいつ、どこで、どのように感じるかにより変わってきます。楽しい時には時間はあっという間に過ぎます。退屈な時には時間の歩みは遅くなります。私たちは、その感じ方が時間をどう過ごしているかに影響を与えると知っています。

## 時間の真の姿とは

しかし時計は常に動き続けています。これは日々や季節が過ぎ、人々が現れては消える、流れゆく世界の中で唯

一不変のものといえます。実際、生きとし生けるものは、誕生から死、そして信じる人にとっては転生まで、絶え間なく動くベルトコンベヤーに乗せられているのです。

では時間とは一体何なのでしょう。操作が可能な物理的な力なのでしょう。それよりも大きな何かの一部をなす、地球または宇宙全体を動かす神秘的な力なのでしょう。あるいは、夜だから眠る、春だから植物が結実する、年を取ったらのんびりするということに、私たちを導く自然の合図の連続に過ぎないのでしょうか。

優れた物理学者や社会学者、神学者が時間について解明しようとしたますが、誰も万人に受け入れられる理論を導き出すには至っていません。アルベルト・アインシュタインの言葉、「我々は現在していることより少し多くを知ることになるだけで、物事の真実の姿は決して知ることはないと思われる」にあるように、ひょっとすると、この問いを解明することはあり得ないのかもしれない。

物理学者は、なぜ時間は後戻りできないのか、すべてはどのように始まったのかについて説明するための方法を模索しました。大きな発見は次々と塗り替えられていきました。1900年代初めにはアインシュタインの相対性理論がサー・アイザック・ニュートンの時間と空間は物理的事象や相互に関わりなく絶対的で不変不動という17世紀の説に取って代わりました。

アインシュタインのもう一つの発見である、光が素粒子や「量子」からなっているという説は、量子力学という新たな物理学分野の基礎となりました。これは、すべては神の秩序により数学的に説明できるというアインシュタインの信念に反するものとなりました。ドイツの物理学者であるヴェルナー・ハイゼンベルクは素粒子の速度と位置を同時に正確に知ることはできないことを証明しました。この「ハイゼンベルクの不確定性原理」は量子力学の基礎となっています。

### 素粒子のもつれ

今日、量子力学は優勢となっています。1988年、物理学を専攻後、哲学を学んでいたセス・ロイド氏は初めて「量子もつれ」という言葉を用いて、長年物理学者を悩ませてきた、なぜ時間は後戻りできないのかという現象を説明しようとしてきました。

量子力学により、素粒子は徐々に他の素粒子と「もつれた」状態になり、最初の状態から変わってしまい元に戻れなくなる（「エントロピー」と呼ばれるプロセス）ことが証明されました。ロイド氏は時間の矢は素粒子間で相関性を増していく矢であると仮定しましたが、時間の矢の問題は「狂人かぼけてしまったノーベル賞受賞者」がやるようなテーマだと周囲から諭されてしまいました。しかし現在量子物理学は物理学において最も活発に研究されている分野であり、『量子もつれ』は量子計算や量子暗号における重要な概念となっています。

カリフォルニア工科大学の量子物理学者であるショーン・キャロル氏は、時間はビッグバンとともに始まったという考え方に反論もしています。ビッグバン理論では、宇宙は完全な秩序を持つ状態から始まったという前提ですがキャロル氏は、もし私たちの世界が「多元宇宙」の一部で低エントロピー状態から始まっていなかったとしたらどうなのかと疑問を投げかけています。同教授はこの問題提起を「確信犯的な推論」と認める一方、私たちは「宇宙はビッグバンとともに始まった」と断言できるほど、物理法則について十分理解している訳ではないと指摘しています。

### 私たちは時間をうまく使っているのか

哲学者や神経科学者、心理学者も「時間」とは何かを理解しようと試みてきました。私たちは目で形や色を視覚し耳で音を聴き、物を触って感じます。しかし、時間は五感のどれで把握するのでしょうか。「時間を知覚する」とは何を示すのかを特定するだけでも、スタンフォード哲学百科事典の2000年に掲載された「時間の経験と知覚 (The Experience and Perception of Time)」の項目についての以下の抜粋からも分かるように、気が遠くなるような話で

す。「人はBがAよりも後に起こると知覚すると、Aを知覚することを止める。その場合、Aは記憶の一つに過ぎなくなる。」

では、それは、私たちの生活にとって何を意味するのでしょうか。めまぐるしい生活から一歩下がって、時間とは一体何を示すのかについてじっくり考えるための時間を割くことでしょうか。時間とはつまるところ、この世で最も貴重な資源の一つであり、誰もが生まれながらに与えられた機会なのです。しかし、私たちは時間をうまく使っているのでしょうか。

時間に追われる現代世界において、重要な決定の基準となっているのは、狭義の商業的な意味合いの強い「時間」です。一国の経済健全性は、年率GDP成長率や、企業の四半期利益や従業員の残業時間における生産性を尺度としています。「時間は作るもの」という格言がありますが、現代では人は時間をコントロールしようとするほど、時間の奴隷となってしまいます。この点では、テクノロジーも重要な役割を果たしています。ウェアラブル端末の登場により、体の脈拍数や心拍数、家電や様々な電子機器のタイミングを完全にコントロールすることが可能となる日も近いでしょう。

英国の異文化化学専門家リチャード・ルイス氏は、現代のペースは米国が作った部分もあるとして、「第二次世界大戦後、米国はドイツや日本の復興や経済再生を支援し、他国に対して、米国の技術やペース、主義に従えば、ビジネスで成功できることを見せつけました」と述べています。収益を重視する米国では、時は金なりです。「時間は春の溪流のように速く流れます。その流れから利益を得るには、時間とともに動く必要があります。米国人は行動の人であり、時間を無駄に過ごすことに耐えられません。」

### 世界を「少しだけ」止めてくれ

他の地域に目を向けてみると、インドでは今も2,000年以上前からのヒンドゥー教の影響を受けた時間管理が続いています。バングラデシュの幹線道路は、無秩序に行き来する人や動物の雑音やうねりであふれています。何もしい人々もいます。インドで働く外国人がよく言う不満に、何かを頼むと「すみません、時間切れです」と言われることが多いというのがあります。

ドイツの異文化化学専門家で、最近までインドに在住していたスザンヌ・ヘルダー氏は「これは、あたかも彼らが怠け者のように聞こえてしまいますが、本当のところ、インド人は人生を総体的に見ているため、回復のために休憩時間を取るのとは日常生活の一部となっているのです」と説明しています。

実際、時間に悩まされる欧米人もこの考え方を拝借して少しだけ世界を止めようとしています。現在、経営コーチングでは、より意識を向けて生きる「マインドフルネス」のコースが提供されています。ルイス氏は、経済覇権の移り変わりと同様、経済世界における時間管理のトレンドも東洋、特にアジアの影響を受けるようになって考えています。「アジアの人々は時間に対して気長です。欧米人は時間を直線的に捉え、消えていくものと見なしていますが

アジアの宗教や哲学では時間を環状のものとして認識しています。今日はチャンスを失ってしまったが、季節や潮の満ち引きと同じように、チャンスは巡ってくるという考え方なのです。」

ルイス氏は、切迫した競争やチャンスを利用しようとする欧米式のビジネス思考は、長期にわたり計画し、漸進的に成長しようとするアジア式の思考に取って代わられると考えています。「政治や政府機関、金融、銀行に対する信頼低下も、この傾向を後押しするでしょう」と同氏は言います。これで世界も少しはペースダウンするのかもしれませんが。

## 【ご留意事項】

- 本資料は、アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン(以下、当社)のグループ会社であるAllianz SEが作成したProject Mを当社が翻訳したものです。本資料の取り扱いには御社内限りでお願いいたします。
- 本資料は、金融について情報を提供するものであり、当社の戦略等の勧誘を行うものではありません
- 本資料の内容には正確を期していますが、必ずしもその完全性をAllianz SE及び当社が保証するものではありません
- 本資料には将来の市場の見通し等に関する記述が含まれている場合がありますが、それらは資料作成時における当社またはAllianz SEの見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません
- 本資料に記載されている内容は既に変更されている場合があります、また、予告なく変更される場合があります
- 最終的な投資の意思決定は、商品説明資料等をよくお読みの上、お客様ご自身の判断と責任において行ってください
- 本資料には、当社がAllianz SEから対外秘扱いで入手した情報が含まれていますので、Allianz SEまたは当社の事前の承諾なく第三者に開示すること、当該資料の一部または全部の使用、複製、転用、配布等をご遠慮ください

**アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン株式会社**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第424号

一般社団法人日本投資顧問業協会 加入

一般社団法人投資信託協会 加入